

# GIGA スクール構想推進中の公立中学校における 主体的な学習を促す社会科地理的分野授業実践

学籍番号 (209316)

氏名 (岸本樹人)

主指導教員 (水野恵司)

## 1、序論

### 1.1 研究の目的

本実践研究では、実習校の生徒や ICT 活用状況などの見学・調査を行い、タブレット使用の意識調査、1人1台のタブレットを活用した授業の開発を行う。インターネット検索を活用した調べ学習や動画視聴を通し、より多くの生徒にとって理解しやすい授業の設計、パワーポイントやSKY MENUのアプリを活用し、情報整理能力や思考力、判断力、表現力を育成することができる授業の開発を目指す。

## 2、3、実習校の概要、実習校の ICT 環境について

### 2.1 実習校の概要と ICT 環境

実習は GIGA スクール構想の実現推進校に指定されている大阪府の中学校で行った。校内の環境は非常に落ち着いている。授業観察を行うと、真面目に授業を受けようとする生徒が非常に多い。2019 年以前に教室の大型テレビは実現している。令和 2 年 12 月に生徒用タブレットが学校に届き、令和 3 年度から本格的に使用している。

## 4、タブレットに対する生徒の意識についてのアンケート

### 4.1 タブレットに対する生徒の意識についてのアンケート

令和3年10月にタブレットの使用に関してアンケートを実施した。タブレットに慣れたという生徒は9割を上回り、簡単、楽しいという質問は7割を上回る結果となった。やってみみたいこととして、調べ学習、パワーポイントでの発表の意見が多かった。

## 5、授業実践

### 5.1 授業実践について

授業の実践を令和3年7月から11月にかけて7回分の地理分野の授業を実践した。対象は1年生3~7クラスで各クラス40名程度である。

実践を通して3点のポイントが見えてきた。

1点目はタブレットを使う意図を明確にすることである。パワーポイントを使用し、情報を整理する力を付けさせたい場合、複数のものを比較させる、写真・図などから情報を読み取るといった、生徒に思考を促すテーマ設定でなければならない。用語説明などのテーマの場合、サイトの情報を写すだけになってしまい、情報を整理する力は養われない。タブレットを使用することが目標となってしまうのではなく、目標や育成したい力と合致した活動・テーマとなっているかを確認する必要がある。

2点目は自分のタブレットで動画を見ることの効果である。自分のタブレットで動画を見るのが便利・分かりやすいというアンケートに85%近い生徒が肯定的な評価をした。

3点目はタブレットを活用した意見の共有、発表の重要性である。作品の共有とコメントが可能なアプリを活用することで、クラスで意見交換を行うことができる。注意点としては、発表をすることが授業に積極的に参加することだと思っている生徒もいるため、パワーポイントなどは作るだけでなく、発表の場を用意することも重要である。

## 6、総合考察

### 6.1 研究を通して見えてきたこと

最も重要となるのは、何を学ぶか(対象)、どうやって学ぶか(方法)、どのような力を育成するか(目標)を揃えることである。タブレットでは様々な学習法を利用することができる。そこで、対象と目標にあった学習法や活動を選択することが求められる。

今後の課題として、時間の管理と個別対応の必要性が挙げられる。カリキュラムマネジメントやタブレットを使用する活動の選定が必要となる。タブレットに慣れていない学級では、チームティーチングを行うなどの支援を行い、生徒がそれぞれの興味・関心や気づいたことに基づいて調べることができるような準備が必要となる。